

12月24日

羽生総合病院訪問

対応者

松本院長・青木看護部長・

視察の目的

埼玉県は、フェーズ4の段階における新型コロナウイルス感染症対策用の病床が不足している。その不足分を補うために予算37億円を投じて、今年度中に仮設病棟・病床の整備を進めている。完成病棟を拝見し、現場の声を伺い、利根保健医療圏における新型コロナウイルス感染症対策に関しての知見を県政に反映する。

視察内容

当初は県南部患者さんを受け入れてきた。現時点では、地域感染者も増えてきている。院内感染をおこさないように患者同線および看護師を中心に医療従事者の勤務状況には注意を払っている。

今回新型コロナウイルス専用80床を職員駐車場に用意をするが、現時点で28専用病床が満床であり、このベッドを仮設病棟に1月1日に移す。看護師は現時点で28人が対応している。医師は感染対策専門医1名常勤でない医師が0.5人カウントで対応している。

80床に増やすことにより医師は1人増員と院長も対応予定で考えている。グループ病院から看護師14人の救援予定があるが、不足は否めない。しかしグループ病院でも500名の新型コロナウイルス患者を受け入れているので、増援は難しい。

いきなり80床対応はできないが、徐々に稼働ベッドを増やしていくように考えている。掃除に関して、感染対策知識が必要なため、看護師対応となっているのが課題である。

仮設病棟は50症が中等症重症対応。30症が一般病棟として機能予定である。

エクモ2台設置しており、エクモネット・勉強会に参加している。人工呼吸器も設置し、透析も受け入れ、帝王切開が原則だが、産科対応も行っている。仮設病棟にはこのような診療体制を反映した病棟病室作りを行った。エクモ・人工呼吸器・産科対応ができる病室は個室かつ広い間取りをとっている。4室専用病室を用意し、透析用の設備がついている病室も配置している。

患者さんの対応としては、PCR検査を受けた後の診断がついていない状況の患者さんの扱いが難しい。

現時点(令和2年12月24日時点)では、コロナ患者さんと一般患者さんの診察における競合までは生じていない。しかし個室にも限りがあり、このままの状況が続くとリスクは当然ある。キャパシティを超えると院内感染の恐れが生じる。

意見交換について

Q実行再生産数をみると簡単には減らない可能性があるが？

Aもともと冬場に多いタイプの風邪・感染症のため減らすのは大変と認識している。

Qコロナを受け入れる病院は、収入が下がり、看護師はボーナスが減る。などの報道があるが。

A職員が頑張れる環境整備をすることがトップの責務。ガウンや防護服の整備（ゴミ袋代用は論外）羽生総合病院は、1か月ローテーションをして疲労を蓄積させないように考えている。給与も支払っている。もちろん現場は大変である。減収もあるが、収支に関しては、コロナ対応をしていることを国が配慮していると感じている。

Q行政政治に対して意見

A目の前の患者さんを診る。が全体数が増えてしまうとその思いも意味がなくなってしまう。ワクチン治療薬は常に考えている。自宅療養中の患者さんにアビガン投与は必要ではないだろうか。安心感も得られるのではないだろうか。薬事行政は平時ではない現状に堪がみて有事の医療承認をお願いしたい。

埼玉県との関係性

医師会に加入、指定・検査医療機関

災害拠点病院とDMAT要請

2019年災害拠点病院に指定された。2018年の新築移転にあたり、建物を耐震構造とし、自家発電設備や屋上ヘリポートの設置、必要なときに臨時のトリアージスペースや病室になる1階の多目的スペースを備えるなど設計段階から災害に強い病院づくりに取り組んでいる。首都圏での大規模震災などが発生した場合最前線に対応することになる。

DMAT（災害派遣医療チーム）について

医師1名、看護師4名、業務調整員（情報収集・記録員）2名が在籍している。

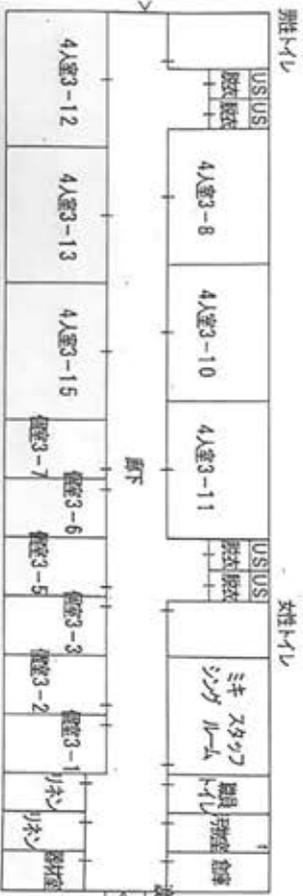


| | |
|-------|----------|
| 発熱外来棟 | 474.16㎡ |
| 管理棟 | 178.61㎡ |
| 感染症棟1 | 552.83㎡ |
| 感染症棟2 | 610.07㎡ |
| 感染症棟3 | 481.82㎡ |
| ボンベ庫 | 33.28㎡ |
| 渡り廊下 | 58.19㎡ |
| 合計 | 2388.96㎡ |

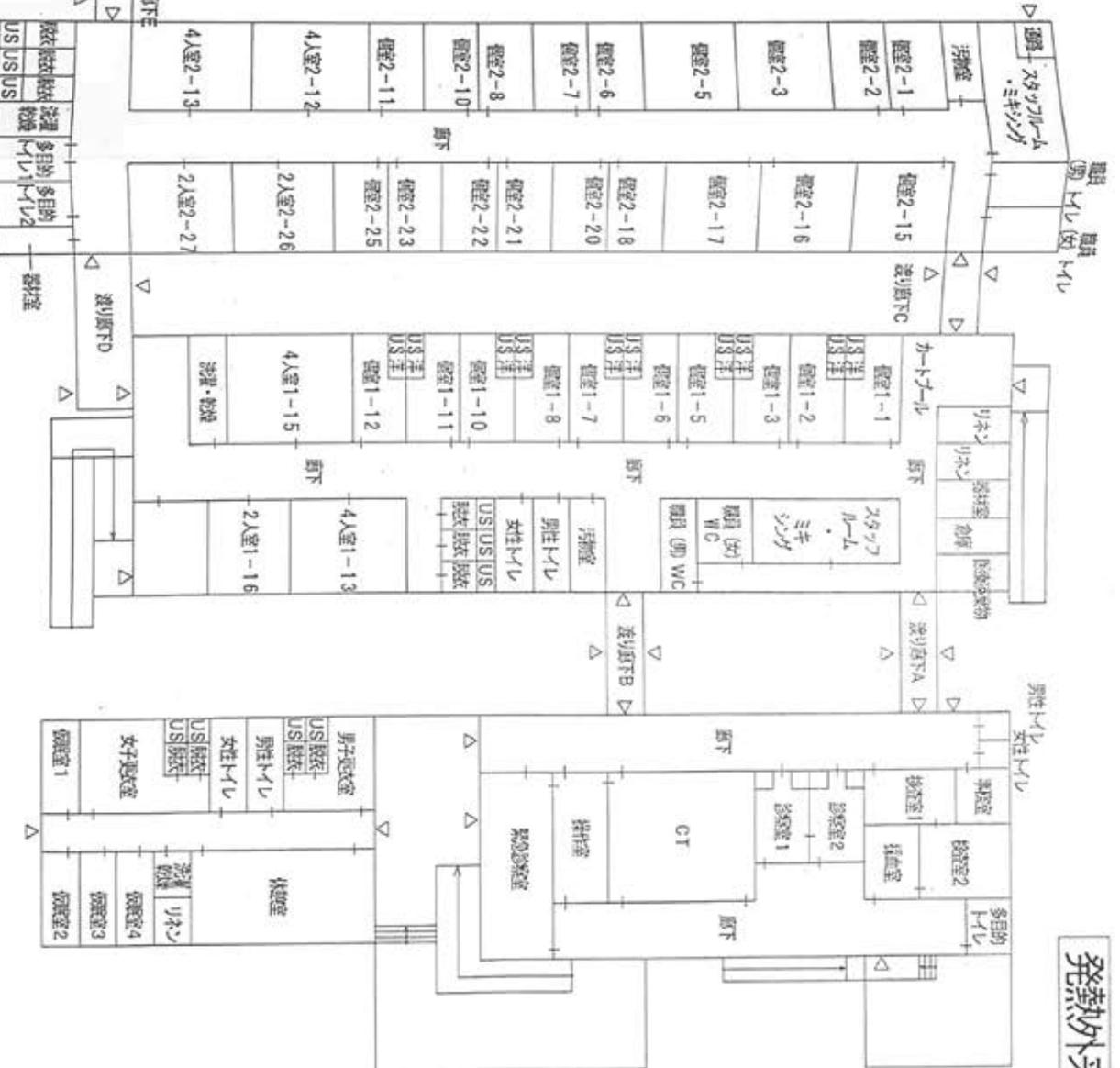
ボンベ庫



感染症棟3 一般30床



感染症棟1 HCU20床



発熱外来棟

管理棟

感染症棟2 HCU30床